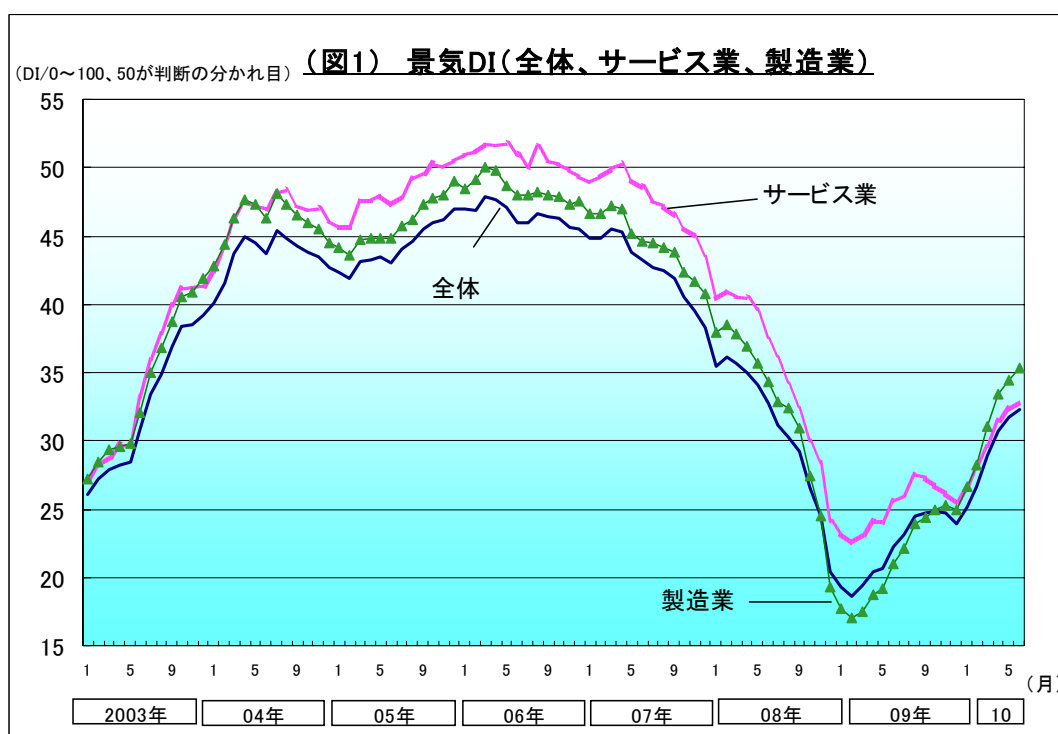


TDB 景気動向調査からみたサービス業

- ・ サービス業の景気 DI は 2010 年 6 月にリーマン・ショック時の水準を超える
- ・ サービス業は他業界よりも回復が遅い
- ・ 収益環境はリーマン・ショック時より改善し、全体を上回っているが、売り上げはリーマン・ショック時より厳しく、全体を下回り、サービス業の景況感の下押し要因に

国内景気は回復傾向にあるが、自律回復の動きは依然として弱い。サービス業の景気 DI は 2010 年 6 月にリーマン・ショックのあった 2008 年 9 月の水準 (32.4) を 0.5 ポイント上回った。中国など新興国向けの外需にけん引されている製造業は 2008 年 9 月の水準を 2010 年 3 月に、全体でも 4 月に超えており、サービス業は他業界よりもリーマン・ショック時の水準を超えるのが遅かった。そこで、今回はサービス業の現状について景気 DI、売り上げ DI、販売単価 DI、仕入れ単価 DI から探る。



まず、サービス業の景気 DI の推移をみる (図 1)。2007 年後半より原油・素材価格の高騰やサブプライム問題などにより、消費者マインドは次第に冷え込み、サービス業の景気 DI も悪化傾向となった。2009 年 2 月を底に改善に転じ、直近の 6 月の景気 DI は前月比 0.6 ポイント増の 32.9 となった。リーマン・ショック時から底となった 2009 年 2 月の下落率は全体が 36.5%、製造業が 45.0%、サービスが 30.2%となり、外需の影響が大きかった製造業では下落率が大きく、内需産業であるサービス業は下落率が小さい。2009 年 2 月から直近の 2010 年 6 月の伸び率は、全体は 73.7%、製造

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

DI 分析レポート

TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

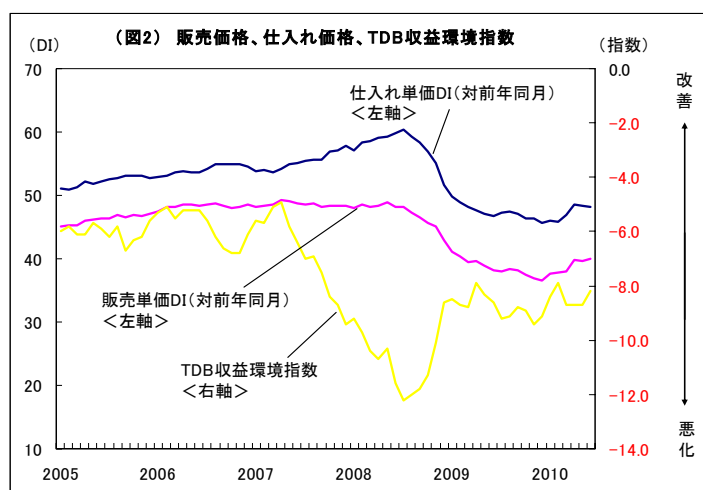
業は 107.6%、サービス業は 45.6%と外需にけん引される製造業は伸び率が大きく、サービス業は外需の影響を受けにくく、国内消費の回復が遅いことから伸び率が小さく、回復が遅いことがわかる。

サービス業の景気 DI は直近の 2010 年 6 月に 2008 年 9 月の水準を上回ったが、他の指標はどうだろうか。

	2010年6月	2008年9月 (リーマン・ショック時)	変化率
景気DI	32.9	32.4	1.5
売上げDI(対前年同月)	41.8	43.0	▲2.8
仕入れ単価DI(対前年同月)	48.2	58.4	▲17.5
販売単価DI(対前年同月)	40.0	46.6	▲14.2

売上げ DI、販売単価 DI、仕入れ単価 DI はすべて 2008 年 9 月の水準を下回った。

特に、販売単価 DI が 14.2%、仕入れ単価 DI が 17.5%と 2008 年 9 月の水準を大きく下回っている。どちらも業種別では「飲食店」と「電気・ガス・水道・熱供給」が特に大きく下回った。2008 年半ばまで小麦をはじめとする穀物や、ガソリン、電気など燃料価格が大幅に上昇していたが、リーマン・ショック



後は企業の低価格戦略や原材料価格の低下により販売価格、仕入れ価格とも低下したためである。販売単価 DI から仕入れ単価 DI を引いて算出される TDB 収益環境指数は、仕入れ価格 DI の低下幅が販売価格 DI の低下幅を上回ったため、2008 年 9 月より 30.5%改善した。収益環境の改善が、景気 DI が改善した要因の一つとなっている (図 2)。

2010 年 6 月時点で、全体とサービス業を比較すると、景気 DI、TDB 収益環境指数が上回った (表 2)。しかし、売上げ DI は全体を 3.6 ポイント下回り、水準が低い。販売単価 DI も全体を下回っているものの、仕入れ単価 DI はさらに大きく全体を下回り、TDB 収益環境指数は全体より高かった。

	サービス業	全体	(サービス業-全体)
景気DI	32.9	32.3	0.6
売上げDI(対前年同月)	41.8	45.4	▲3.6
仕入れ単価DI(対前年同月)	48.2	52.4	▲4.2
販売単価DI(対前年同月)	40.0	42.4	▲2.4
TDB収益環境指数	▲8.2	▲10.0	1.8

サービス業の景況は改善傾向にあるものの、売上げや販売単価は依然としてリーマン・ショック時より厳しく、また全体を下回っており、景況感の回復を下押ししている。販売単価は仕入れ単価より下げ幅が小さく、収益環境の改善の要因の一つにな

DI 分析レポートTDB 景気動向調査（URL : <http://tdb-di.com/>）

っているが、売り上げが伸び悩む一因ともなっている。販売単価や売り上げが上昇し、サービス業の業況が改善するには、需要の増加が不可欠であり、自律回復の動きが活発化することが必要だ。

（産業調査部 経済動向研究チーム K. S）